

2011年8月10日、「東日本大震災ボランティア事前研修会及び報告会」を大岡山キャンパスにて開催した（16時～、西8号館3階W834講義室にて）。

この事前研修会及び報告会は、東日本大震災の被災地域でのボランティア活動に関心のある学生及び教職員を対象に、ボランティア活動参加にあたっての注意事項や現地の状況などを報告するもので夏季休暇中にもかかわらず50名余りの学生及び教職員が参加した。

「災害時のボランティア活動」について、大田区被災地支援ボランティア調整センター事務局長小野紀之氏から、ボランティア活動の留意点と、大田区が被災直後から現在に至るまで実施している活動内容を、現地での写真を見せていただきながらご講演いただいた。被災直後と現在とでは必要とされている支援の内容が変化してきていること、常に被災地のニーズに合わせる事が重要とのことであった。

引き続き、これまで数回現地でのボランティア活動に参加した、大学院総合理工学研究科修士課程1年の石月文月さん、大学院総合理工学研究科博士課程2年の川口卓志さんから、ボランティアに参加した動機、具体的な活動内容、参加しての感想、今後に向けての考えについて、それぞれ発表をおこなった。東工大生としてボランティア活動にどう関わっていったらよいか今後に向けての問題提起もあり、発表者の熱意が伝わるものであった。

これらの講演や体験報告を受けて、質疑応答に入ったところ、熱心な質問や意見交換が繰り広げられた。まず授業として「災害ソリューション実践」を担当した大学院社会理工学研究科桑子敏雄教授より講義内容の紹介及び活動報告がなされた。また参加者から今後に向けた取組や大田区はじめ各所との連携について積極的な提案がなされ、これからボランティア活動への参加を希望する学生にも、今後のネットワークづくりを志向するボランティア経験者の学生にも、有意義な事前研修会および報告会となった。

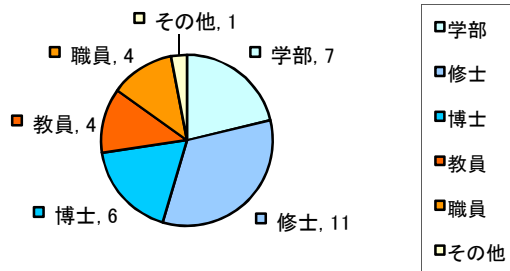
参加者アンケートの集計からも、殆どの方に満足いただけたことがうかがえる。「小野さんから実際の被災地の現状が知れてよかったです。やはり、メディアだけでは全てを把握しきれないので、実際に被災地に行った方のお話はすごく勉強になりました」、「同じ学生として刺激を受けました」、「とても行動力があり、熱い思いというのが伝わるプレゼンだった」、「何もできないではなく、何かできることはないかと考えることの大切さを思いました」、「活動に参加する学生の支援強化を」、「大学としての支援、協力が必要」等の記述がみられた。また、“この事前研修会及び報告会に参加してボランティア活動に参加したいと思いませんか”の問いには、8割以上の方から「参加したい」との回答があった。

次回はすずかけ台キャンパスでの実施を予定している。ボランティア参加学生及び教職員からの体験報告の場も継続的に設けていきたいと考えている。

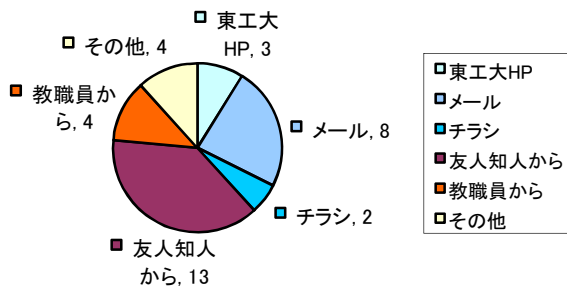
東日本大震災ボランティア 事前研修会及び報告会 アンケートのまとめ

参加者数 47名
アンケート回収数 33名

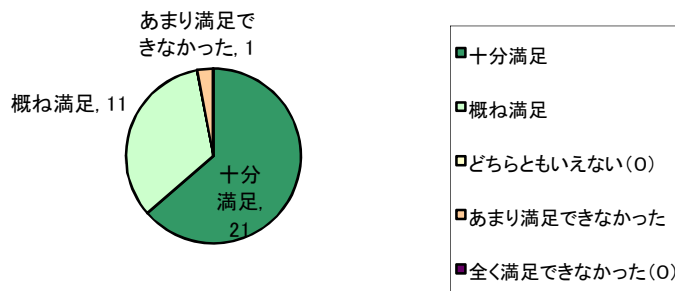
1. ご所属について教えてください。



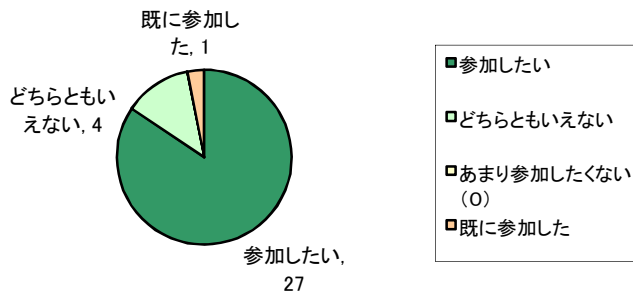
2. 事前研修会及び報告会について、どこでお知りになりましたか？



3. 今日の事前研修会及び報告会はいかがでしたか？



4. 本日の事前研修会及び報告会へ参加してボランティア活動に参加したいと思いましたが。



5. 講演をお聞きになっての感想をお書きください。

【学生】

- ・講演をされたお三方の熱意がとても強く伝わってきた。
- ・東工大でチームを作るというのがいると思いました。
- ・自分ひとりで何ができるか考えさせられた。
- ・現地の状況を詳しく知れてよかった。
- ・最近テレビでも被災地の様子が放送される機会が少なくなってきたが、盛んにボランティアが行われていてびっくりした。生の情報がたくさん聞けてよかったです。
- ・自分たちとは違うアプローチを行っていて、参考になった。
- ・ニーズの現状について認識が深まりました。
- ・大田区以外の活動についても知りたいと思った。
- ・大田区がボランティアについて手厚く支援していると知ることが出来てよかった。
- ・参考になった。区で色々やっているようで驚いた。
- ・被災地のためだけではなく、今後大田区で災害があった時の経験を積ませるという考え方に驚き、良い考えだと思いました。
- ・私も7月末に「災害ソリューション実践」の授業で岩手県遠野市に行きましたが、震災直後の悲惨さを伝えていただき、同じ学生として刺激を受けました。
- ・大学としての方針を示して欲しいです。
- ・活動している人の生の声が聞けてよかった。
- ・ボランティア参加にあたって、重要な情報を得ることができました。
- ・これまでの支援活動は、いろいろ知見が増えた。大田区の決断に敬服する。是非、東工大と共同／協働で何か実現できれば、と思う。
- ・東工大生であれば大田区在学という扱いを受けられるのであれば、是非、大田区のボランティア活動に参加したい。

【教職員】

- ・大田区と特定地域の集中的、長期間継続支援は非常によいアイデアと思う。
- ・「他の人を思う心」が大切。大学としての支援、協力が必要。
- ・実際に活動されている方ならではのお話で、勉強になりました。またお話を伺いたいです。
- ・大田区の活動について、ほとんど広く広報されていないように感じました。特に旅費の負担のこと！逆提案のことなど！！
- ・途中からの参加で残念でした。大田区でこんなにしっかりとした仕組みがあったのかと感心しました。資料をよく読ませていただきます。
- ・小野さんから実際の被災地の現状が知れてよかったです。やはり、メディアだけでは全てを把握しきれないので、実際に被災地に行った方のお話はすごく勉強になりました。

6. 学生からの体験報告をお聞きになったの感想をお書きください。

【学生】

- ・東工大として支援していきたい。
- ・行動力に感心しました。
- ・同じ学生として、とても行動力があり、熱い思いというのが伝わるプレゼンだった。
- ・実際にボランティアに行った方の話が聞けて、ボランティアに行こうという思いが強くなった。
- ・ゼミ旅行をボランティアにしている、すごい…。
- ・ゼミ合宿でボランティア活動をするというモチベーションに驚かされました。
- ・現場での生の声が聞け、とても考えさせられました。
- ・学生が積極的にボランティアしていると知って、頼もしく思った。
- ・ゼミ旅行でボランティアするというのは、よいアイデアだと思った。母校として恥ずかしいという言葉に驚いた。学校としてのまとまりが必要だと思った。
- ・同じ学生として、刺激を受けました。
- ・これまで何もしてこなかったのが恥ずかしい。今後、参加していきたいと思う。
- ・生の情報で非常に勉強になりました。
- ・被災地のニーズの変化を正確に把握し続ける事が重要であり、一番難しい点であると考えた。
- ・良かったです。これからの発表の機会を設けてくださるといいと思いました。

【教職員】

- ・種々の形のボランティアがまだまだある事を、若い世代が学ぶ姿勢は感動した。
- ・素晴らしい報告で感銘を受けました。
- ・石川君と川口君の熱意に感動しました。
- ・自主的に活動されている様子に感銘を受けました。東工大ならではの、人の生活や心を大切にする科学、工学の実践に期待しています。
- ・真剣に復興の支援について考えている学生さん、先生方がたくさんいらっしゃることを知り感激しました。私も微力ながら何らかの力になりたいと思います。
- ・もう少し長い時間聞いていたかったです。とても頼もしく感じました。同世代の子供がいるので、早速伝えたいと思います。
- ・私は未だにボランティアの経験がなく、今回も寄付しかできていないので、被災地の方の力になれたらなと思いました。

7. その他(ご意見やご感想をご自由にお書きください)。

【学生】

- ・必ず自分の経験にもなるし、刺激になると思うので参加したい。
- ・大学として積極的に、というのは私も思う。
- ・非常に刺激になりました。ありがとうございます。
- ・活動に参加する学生の支援強化を。
- ・ありがとうございました。
- ・参加者が想定以上に多く、震災復興への関心の高さを伺えた。
- ・もう少し意見交換会的な要素があると良かったです。

【教職員】

- ・今後の復興に向けた被災地域の教育、研究の立ち上げも、現地の友人たちの声として寄せられていることも教官側は知っておく必要があると考える。単位etc.で教官の協力を得る為、至急、紹介、報告を出して欲しい。
- ・遅れての参加でしたので、前半の講演、体験報告を聴くことができませんでしたが、質問に対するお応えをうかがっているだけで、具体的にどこにどこから働きかければよいのか整理できました。何もできないではなく、何かできないことはないかと考えることの大切さを思いました。たくさんの学生さんたちが関心をもって臨んでいることにも感銘を受けました。